

障害者と小集団活動に関する調査研究

事業所においては、企業体質の強化改善を図るために、従業員による自主的な小集団活動が幅広く実施されている。それには参加者夫々が問題解決意欲をもって個性を活かし、相互に人間性を尊重することが重要と考えられる。事業

所における障害者雇用が促進されつつあるなかで、障害者が円滑に小集団活動に参加し、望ましい人間関係を保ちつつ活動に貢献し、職業人としての自己啓発努力を促すため、事例研究により具体的方策を探った。

<主査>

- ・篠原 幸哉 雇用職業総合研究所
雇用管理研究部長

<研究委員>

- ・大野 茂躬 十条製紙(株)技術本部
生産部上級技術調査技師
- ・杉 浦 忠 横河電機(株)
品管企画部専任課長
- ・白井 俊子 東京都心身障害者福祉
センター精神薄弱科科長
- ・谷田部光一 (株)産業労働調査所
研究員

目次

第I部 解説編
第1章 小集団活動の意義と現状
第2章 小集団活動の運営
第3章 障害者の小集団活動への参加
第4章 今後の課題
第II部 事例編